

テレビ静岡では番組の適正化を諮るための審議機関「番組審議会」を設けています。

このページでは番組審議会の議事の概要をお知らせしています。現在、テレビ静岡では県内在住の8名の方に審議委員をお願いしており、毎月1回（2月、8月は休会）番組について、ご意見を伺い、今後の番組制作の参考にさせていただいています。

テレビ静岡 2019年12月度 番組審議会概要

2019年12月12日（木）

14時00分～

テレビ静岡本社 4階 会議室

— 出席委員 —

高木 正和(委員長) 戸崎 文葉(副委員長) 石田 美枝子
木村 精治 上柳 正仁(欠席) 飯野 勝己 松本 恵司 栗山 勝訓

— 議 題 —

番組名 「密着180日 なぜ森保一は日本代表監督なのか？」

放送日時 2019年12月8日（土） 24時30分～25時25分

制作著作 テレビ静岡

— 番組内容 —

サッカー日本代表の森保一監督に半年間密着。東京五輪監督と兼任という重責も担う森保氏は、選手として1993年のドーハの悲劇を経験した初めての日本代表監督でもある。サンフレッチェ広島時代は3度の優勝を果たすなど実績は十分だが、一見すると普通の男。何がすごいのか？なぜ森保一は日本代表監督なのか？その答えを求めて密着取材を重ねた。東京五輪世代のエース候補・堂安律など、代表選手や両親への取材の中で見えてきた姿。

選手選考や戦術などで批判を受けることも少なくないが、この男が何を考え、日本サッカーの未来をどのように見据え、「森保流」の日本代表を築こうとしているのか。密着取材で見えてきた「森保一が日本代表監督である理由」がここにある。

— 審議概要 —

- ◎選手に注目が集まりがちなか、監督に焦点をあてていて興味深かった。
- ◎監督の人柄や日本サッカーの将来への思いが伝わる番組だった。
- ◎指導者としての考え方や選手とのコミュニケーションの取り方などはビジネスでも参考になり、サッカーに関心がなくてもためになる内容だった。
- ◎サッカーに詳しい人も納得でき、詳しくない人にも面白いと思わせることを両立させるのは難しいと思うが、完成度が高く感心した。教育番組のような印象も受けた。
- ◎密着の期間や回数、さらにオランダまで取材に訪れるなど、制作側の熱意を感じる番組だった。
- ◎人物像に焦点をあてる場合、その人の私生活にフォーカスしがちだが、この番組ではプライベートな部分を一切取り上げずサッカーのみに徹していて、一貫性に好感が持てた。
- ◎J1 だけでなく J2 や大学サッカーまで現地を視察する行動力と、様々なタイプの選手の特性を見ながら将来を考える姿勢が、代表監督である理由なのだと感じた。
- ◎「勝たなければいけない理由」について、かつて指揮を執った広島の前監督や被災地への思いを語っていたシーンが印象的だった。
- ◎番組冒頭の、森保監督が何度も部屋を間違えるシーンに監督の人柄がよく表れていた。これを編集せず冒頭にそのまま使ったディレクターの決断を評価したい。
- ◎スーパーのフォントや色使いなども丁寧に工夫され、洗練されたイメージを受けた。
- ◎なぜ森保氏に日本代表監督を託したのか、協会側のコメントも欲しかった。
- ◎戦術の説明など具体例を示せば、より説得力が増したと思う。
- ◎日本人監督が良いならなぜこれまで外国人監督が指揮を執ってきたのかという疑問が残る。日本サッカーが成熟してきたのであれば、そのような背景を説明しても良かったのではないかと。

第2部 2020年のスポーツ 番組・報道への期待

以上、制作部門にフィードバックし、今後の番組作りの参考とさせていただきます。

次回の番組審議会は2020年1月16日（木）の予定です。